

平成30年度 園の自己評価

A…できている B…おおむねできている C…一部改善を要する D…改善を要する

1. 保育理念、保育観		
1	園の保育理念、保育方針、全体的な計画を全職員に周知している	A
2	園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている	A
3	定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている	B
4	全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践、分析、評価を行っている	A
<p>年度の始めには、理事長、園長から園の方針について説明がされ、全職員が共通理解をした上で、保育にあたることができるよう心掛けている。全体的な計画についても年度初めに勉強会を行い、全体周知を図っているが、全職員で意見交換や思いを話し合う場を設ける事を検討している。また、毎月、月間指導計画を作成する際には、全体的な計画を見ながら必要なことをおろすので、定期的に全体計画には目を通すことができていると思う。なお、年度の終わりには保育の反省や指導計画などの見直しを行い、次年度へ役立つよう活用されている。</p>		
2. 保育計画、保育実践と振り返り		
1	全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し、計画的に保育を行っている	A
2	子どもの発達を理解し、その先に見通しを持った保育を工夫している	A
3	配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ち、その子に応じた対応をしている	A
4	保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている	A
<p>クラス計画は、クラスリーダーが主に作成するが、クラス会議でその内容について見直しや話し合いが行われている。モンテッソーリ教育は子どもの発達を観察しながら環境整備を進めていくので、保育者は子どもの発達をしっかりと頭に入れながら保育にあたる努力がされている。保育計画の中では、毎年、行事についての検討もされている。同じ行事を毎年同じように行うだけではなく、前年度の反省を生かしながら、内容やスケジュールなどを考え直しながら、子どものために常によりよいもの、意義が感じられるものになるよう努めている。</p> <p>また、モンテッソーリ教育は日常の生活を大切に考えられているので、行事との両立は難しい面もあるが、幼児の心身の発達を考慮しながら目的をよく考えながら行っている。また、乳児および特に0歳児の行事の参加については、その年のクラスの子どもの育ちや傾向もあるので、話し合っ決めていく。配慮が必要な子に対しては、保護者との面接を行ったり、園での様子などもお話ししたり、保護者の了解が得られれば、専門家にも参観して頂きカンファレンスを通して園としての指導方法をご指導頂いたり、職員が研修に参加して学んでいく等して、専門性を高め個々の事例をこなしている。職員会議で全体周知をし、その後は各クラスで非常勤やパート職員にも伝達をし、共通認識を持つようにしている。</p>		
3. 環境、安全		
1	一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している	A
2	園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている	A
3	職員一人一人が健康、安全に対する認識を持っている	A
4	職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている	A
<p>モンテッソーリ教育を通して保育室の環境は充実し、適切な援助がされているといえる。</p> <p>望まれていた園庭の植樹もされ、その成長が待たれるところである。園庭には日陰がないので、乳児園庭にはシェードを張り巡らせたり、幼児園庭の砂場にも日陰をつくる屋根を増設した。</p> <p>安全管理においては副園長を中心に行われており、気になることには素早く対応し、改善が計られている。</p> <p>公園のハチの巣駆除など、園で対応できないことに対しても、素早く役所へ駆除を依頼するなど、迅速な対応を心掛けている。</p> <p>最近では大型台風や集中豪雨などの自然災害の被害も大きく報じられるようになってきているが、本園は大きな山を背中に抱えているので、避難訓練では土砂災害を想定しての訓練も行っている。</p> <p>また、不審者対策のために、職員が2度に渡り護身術研修を受けた。研修をいかした不審者対応の避難訓練も計画している。</p>		
4. 食育		
1	職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている	A
2	栄養士、保育士などが連携し、食育を積極的に進めている	B
3	食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている	A
4	離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している	A
<p>じゃがいも、さつまいもの芋ほり体験をはじめとし、季節の野菜を栽培してクッキング活動に役立てたり、給食では旬の食材を積極的に取り入れて季節の味わいを楽しむことができている。</p> <p>調理室とは、よく連携が取れているが、食育活動は保育者が中心となって行うことが多く、調理員や栄養士の携わりが少ないことが課題で、今後は専門的な立場からの食育も行えるように計画している。</p> <p>クッキングも盛んに行い、おやつ作りなどを楽しんだり、園児は包丁などの道具の使い方も経験の中で習得している。</p> <p>保護者への嗜好調査では、園の給食における満足度は高い評価を得ているので、今後も保護者の期待に応えられるようなおいしい給食作り、食育を続けていきたい。食物アレルギーの除去食については、家庭と連携して、きめ細かに対応している。</p> <p>なお、小さいながらも園庭に畑を増設したので、旬の野菜の栽培、収穫を身近に観察できる楽しさや、食材への親しみにつなげている。</p>		

5. 職員構成、役割分担、研修		
1	職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進むよう、心がけている	A
2	園内、園外研修の年間計画を立てて、実行している	A
3	各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている	A
<p>年度初めに主幹保育教諭を中心に、園務分掌として、園の運営における係や行事担当を決めているが、各職員の個性や得意なことを生かしながら、適材適所の配置を心がけ、一人ひとりの力が発揮できるように配慮をしている。</p> <p>モンテッソーリ教育を深めていくために、1年間の研修計画を立て、月2回ずつ専任講師による研修を、各クラスごと、又は乳幼児ごとに、保育教諭全員が受講している。さらに年間2回土曜日にセミナーを開き、保育の理論や提供を学んでいる。研修、セミナーともに、原則として全職員が参加できるように体制をとっている。</p> <p>園外の研修には人員配置を工夫しながら積極的に参加するようにしているが、研修報告の時間や場がなかなか持てなく、回覧で済ませてしまうことが多い。研修での学びは、他の職員とも共有できることが望ましいが、現時点では参加者本人のスキルアップに留まっているのが現状でもある。学んだことをもっと多くの職員に伝達できるような工夫を考えたい。</p>		
6. 保護者支援、子育て支援		
1	保護者に対し、園の教育保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている	A
2	保護者の状況など、個人情報の漏えいに気をつけている	A
3	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共有するよう、心掛けている	A
4	地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている	A
<p>園だよりやクラスだよりは、日頃の活動の様子を伝えられるよう、カラー印刷でわかりやすく時間をかけて作成し、努力している。</p> <p>また、門扉の横の大きな掲示板では、園の活動紹介を写真を交えて積極的に行い、保護者だけでなく、地域の子育て中の親子や地域へ向けてのよい情報発信の場となっている。</p> <p>さらに、月1度の‘子育てサロン’には毎月大勢の地域の親子が来園されるので、ただの場所提供だけでなく、いろんな催しを考え、親子がリフレッシュしたり、子育ての悩みや不安を解消できるよう保健師さんや子育てに役立てていただける講師の先生をお招きして、有意義な時間となるよう、毎回丁寧な準備をしている。</p> <p>個人情報の取り扱いには、全職員が細心の注意を払っているが、持ち物の入れ間違いが時々起きるので、チェック体制を強化しながら改善に努めている。</p>		
7. 小学校や地域社会との連携		
1	定期的に地域の保育園や幼稚園、小学校との交流を行っている	C
2	町内会や地域の方との交流を積極的に行っている	A
3	ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れ体制が整えられている	A
<p>これまで学区の小学校で行われていた「新一年生体験入学会」が、今年は学校の都合で行われなかった。</p> <p>実際に小学校の中に入り小学生と触れ合ったり、校内を見学したり、同世代の子どもの交流の場にもなっていたので、とても有意義で貴重な交流の場であったが、小学校事情も考慮しなくてはならない。</p> <p>それ以外には、地域の保育園や小学校との交流の場はないので、交流事業としては、地域全体で取り組まなければなかなか難しい。</p> <p>地域との交流という点では、地域で行われる年2回の祭りに、園児、職員ともに積極的に参加し、将来的に地域の担い手として活躍していく地域の子どもとして楽しく経験を積んでいる。年長組は、地域の老人ホームへの慰問には年3回出かけ、世代間交流を体験する貴重な場となっている。</p> <p>実習生の受け入れについては、職員全体が温かく迎え入れ、丁寧な指導を行い、受け入れ後の礼状などを見ても、有意義な実習経験になっていることが伺える。</p>		